

財政健全化計画

(平成17~19年度)

市民生活を守り
安定した笠岡をつくるために

現在、笠岡市をはじめ地方自治体の財政事情は極めて厳しい状況が続いています。

そのため、笠岡市は平成15年7月に「財政健全化計画（平成15年度～平成17年度）」を作り、一丸となってこの問題に取り組んでいます。

今後も厳しい財政状況は続きます。笠岡市では新しい「財政健全化計画（平成17年度～平成19年度）」を基本に本市の特性を生かしながら、市民が元気で生活することができるまちづくりを実現するため、安定した行財政運営に全力で取り組みます。



大変厳しい状況だね。財政状況を示す数値が良くないし、今後の国の三位一体改革の進展も不透明だ。また数年後に多額の退職金が必要になる予定なんだ。詳しくは次の表を見てごらん。

笠岡市の状況はどう？

③バブル期の大型公共工事の借金返済のため。などが挙げられるね。

②そのため、重要な財源である国からの地方交付税や補助金などが大きく減少したこと。

①長引く不景気で、国・地方ともに大幅な税收減が続いたこと。

どうして、地方自治体の財政状況は悪くなったの？

いくつか理由があるけれど：

笠岡市の財政状況

(単位：億円)

	平成6年度	平成12年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度 (見込み)	平成18年度 (見込み)
歳入額	267.7	245.7	239.9	224.6	212.3	211.4
歳出額	261.3	240.5	235.8	220.1	210.1	213.0
基金の額	38.4	27.1	14.5	14.8	18.6	18.7
うち財政調整4基金	26.4	12.8	9.5	9.9	11.4	11.5
市債残高	224.5	270.5	264.1	257.0	248.6	240.1
経常収支比率	79.5%	86.2%	92.2%	89.4%	87.1%	90.0%
公債費比率	14.6%	18.7%	19.0%	18.2%	16.6%	16.2%

財政状況を示す数値はいろいろなものがありますが、ここでは家庭の収入・支出にあたる歳入・歳出と、貯金・借金に当たる基金・市債、さらに経常収支比率と公債費比率について比べてみましょう。



歳入・歳出の額が年々減ってきてるね。また、以前より基金（用語については解説を見てね。）の額も減っているようだ。さらに、経常収支比率が高いことから財政状況は厳しくなっていることがわかるね。

以前より状況は悪くなったのかな？

財政用語解説

【基金】

市の貯金のことです。通常は特定の目的（学校建設や商店街の復興、福祉施策の推進など）のために、お金を積み立てたり資金を運用します。その中には、財政調整基金など年度間の財政調整機能をもっている基金もあります。笠岡市の場合、財政調整基金が最低でも14～15億円は必要とされています。

【市債】

市の借金のことです。ただし市債を借り入れるときには国・県の許可を受けなければなりません。また、市債には公共施設など、そ